

なりました。ありがたいことです。また、育児休業制度のお陰で、満一歳までは親の手で育てられる社会制度も整いました。0歳保育等の保育園や幼稚園の制度改革も進められました。これもありがたいことです。また、児童館に預けたり学習塾や社会教育活動等で長時間指導してもらうことができるようになりました。親にとっては大変便利な世の中になりました。しかしその結果、子供達は、親と一緒に生活する時間が急激に少なくなっていました。粉ミルク子、鍵子、留守番テレビ子、百円おやつ子、親の顔を知らない子・・・・等続出しています。そのため子供達は母親に抱っこされたり、父親と遊ぶ時間が限られ、心の乳房の思い出不足や接触欲の満たされない不安定な幼少期を過ごしているのです。

#### 《学校週5日制のめざすもの》

平成4年9月1日から、学校週5日制の試行が開始され、第2・第4土曜日が休日となりました。当初は「家庭は多忙だ。地域に受け皿がない。毎週2日もゴロゴロされては困る・・・・等々」反対の声が上がりました。本当に日本の家庭は忙しいことは事実です。しかし子供達は明治以来40日に近い夏休みを有意義に過ごしてきているのです。来年の4月から完全学校週5日制がスタートします。どうか子供達を家庭や地域で大事に抱きかかえてほしいものです。学習塾もよいし社会体育のスポーツや文化的な習い事もよいでしょう。でも養育の本質は親が手塩にかけて育てることです。この基本を日本の大人が再認識しないと学校週5日制の制度はいかされないのです。残念ながら現在の親の意識では50年後にならないと本当の5日制が定着しないのではないかと憂慮するのは私だけでしょうか。「学校よ、私の子供を我が家に返してください」という親の声を未だ聞いたことがありません。

人間の生命は、父親の1回の精液中の精子約2億5千万個（アメリカ合衆国の人口とほぼ同じ数）の中の1個と母親が一生の間に保有する約500個の卵子の中の1個が合体して誕生すると言われています。長い人間の歴史の中でこの生命のリレーが閉ざすことなく繰り返されてきたのです。不思議な生命の出会い。必然とも言える夫婦の出会い。親子の出会い。世界人口約60億人の中での家族の出会い。人間としてこの世に生を受け家族の一員として出会えた縁を大切にしたいものです。どうか「ようこそ学校5日制、我が家の家庭教育改革元年スタートだ、」と諸手を挙げて迎え入れていただきたいものです。

#### 《親子の絆と縄文教育》

私たちの地球上には約140万種類の生物が生息しているそうです。クモ、スズメ、タヌキ、イルカなどは、学校教育を受けずとも逞しく生き続けています。例えばクモは地上に出現して以来、巣袋や巣網等を作り親から子へ代々衣食住の方法を子孫に伝えてきました。テレビの「地球不思議大自然」などを見ると涙が出ることがあります。本当に他の生き物たちは、真剣に子育てをしている

山崎 勲 君

#### ロータリー財団ボックス：

阿部勝子君 やさしい心人を大切に皆元気に生きたいと想います。

卓 話： 「宇宙からの贈り物 隕鉄を鍛えて」 池田慶郎様



宝石店を営む、堀川さんから磨いた隕石の独特の模様に感動し、「隕石を使った刃物を三条で作ることが出来ないか」と持ちかけられた。材料の隕石はアフリカ・ナミビアで1836年に見つかった「ギボン隕鉄」同じ隕鉄からは5年前に宮城県で日本刀が製作された。隕石の鉄は地球上の鉄とは違って柔らかく、刃の部分に鋼を付けて鍛える際に技術が必要。昨年春に隕石を渡され納得のいく小刀4本を作り上げたのは、今年の夏でした。表面には地上の金属にはない独特の模様が美しく浮かび上がっています。失敗できないだけに気が抜けなかつた。

隕鉄は地球の大気中でも燃え尽きずに地上に落下した金属のかけらです。宇宙空間での冷却速度は100万光年に1度といわれそれから計算すると約150億年前にさかのぼります。ロマンがあり神秘的な刃物ができました。

\*実際に小刀と隕鉄を持参して頂き見せて頂きました。

会 員 の 声： 口臭はなぜするの？ 今井 克義

口臭とは：

呼吸や話をする時、周りの人が不快に感じる臭いを口臭といいます。しかし、自分で自分の口の臭いを正確に判断することはできません。口臭があるかどうかは他の人にしか判らないのです。

原因は：

口臭を分類すると、生理的口臭・飲食物による口臭・病的口臭および心性口臭があります。

1. 生理的口臭は、例えば、誰でも朝目覚めたときは口の中が不快であり、ある程度の臭いがあります。この様に“人として当然ある臭い”を生理的口臭と呼びます。第三者には不快な感じはありません。
2. 飲食的による口臭とは、タバコ・アルコール・ニンニクに代表される物で一時的なものです。
3. 病的口臭こそ最も問題となる口臭です。
4. 心性口臭とは、過度の潔癖症や不安・緊張のあまり、口臭があると自分で判断してしまっている場合です。

問題となる病的の口臭とは：

口の中が不潔で清掃がゆき届かないと、歯垢（細菌）が増え、ムシ菌や歯周病（歯槽膿漏）が進行します。そのために、歯垢はますます、溜まりやすく不潔になります。細菌が増え、炎症が増

大すると、組織の破壊が起こり、タンパク質が分解されて、臭気が発生します。これが「口臭」です。

口臭の予防は：

徹底した口腔内の清掃こそ、最大の予防です。そのためには、歯垢が溜まりやすく不潔の原因となる

1. 虫歯・歯周病の治療。
2. 不適合な冠・詰め物・義歯などの再治療

を行うこと。そして一番大事なことは、歯垢を取り除くために、いつも上手に歯ブラシを使うことです。

又、舌苔（舌の上に溜まった汚れ）も見逃せません。

その他に、鼻や呼吸器系の病気・胃炎などの消化器系の病気・糖尿病・尿毒症・肝臓病などの病気の場合も口臭の原因となることがあります。

11月のお祝い：

| 誕生日   |     |  | 結婚記念日     |     |  |
|-------|-----|--|-----------|-----|--|
| 会 員   |     |  | 夫 人       |     |  |
| 小畠 茂男 | 1   |  | 佐藤ミチ子     | 9   |  |
| 小田登志男 | 1   |  | 落合千鶴子     | 1 6 |  |
| 阿部 勝子 | 9   |  | 堀川美智子     | 1 8 |  |
| 佐藤 義英 | 1 8 |  | 大竹 チェ     | 1 9 |  |
| 坂内 康男 | 1 8 |  |           |     |  |
| 丸山 勝  | 2 6 |  |           |     |  |
| 山本 賢  | 2 9 |  |           |     |  |
|       |     |  | 梨本 清一・トア子 | 3   |  |
|       |     |  | 柄沢 憲司・祐子  | 3   |  |
|       |     |  | 小田登志男・由美子 | 5   |  |
|       |     |  | 青木 省一・征子  | 5   |  |
|       |     |  | 山口 龍二・ミチ  | 7   |  |
|       |     |  | 丸山 勝・江利子  | 1 0 |  |
|       |     |  | 今井 克義・房子  | 1 4 |  |
|       |     |  | 芦田 義重・恵登  | 1 6 |  |
|       |     |  | 本間 茂男・はま子 | 1 8 |  |
|       |     |  | 白倉 昌夫・満江  | 2 2 |  |
|       |     |  | 石丸 進・咲子   | 2 3 |  |
|       |     |  | 笹原 壮玄・広子  | 2 4 |  |
|       |     |  | 駒形 実・隆子   | 3 0 |  |

9月18日例会

卓 話： 「学校週5日制と縄文教育」 三条市立第三中学校長 星野健藏さん  
（歌）静かな静かな 里の秋 おせどに木の実の 落ちる夜は ああ母さんと ただ二人 栗の実  
煮てます囲炉裏端・・・

越後の地に秋が巡って参りました。三条北ロータリークラブの9月例会の“新世代の為の月間”

にお招き頂き、皆様と一緒にお話が出来ますことに感謝申し上げます。人生の大先輩であられる皆様に、これから私がお話することは恐らく間違いや失礼な点がいくつかあるかと思います。「今日我が言うことも明日には逆の事を述べるかも知れぬ」と言った小栗上野介美作に真似て、間違っただ点は私自身の成長の証としてお許し願います。しばらくの間皆様の人生の貴重なお時間を拝借させていただきます。

《学校週5日制の到来》

いよいよ平成14年4月1日から学校週5日制が完全実施されます。ある教育学者は、これを「第3の教育改革」と言っています。それは明治5年の学制発布による日本国における最初の学校制度導入と戦後の昭和22年に発足した6・3制民主主義教育に継ぐ改革だからです。この第3の改革による新学習指導要領の改善のねらいを紹介します。この4つのねらいは、裏返して考えると、現在の学校教育に欠如している点だと解釈することができます。

- 1) 豊かな人間性や社会性、国際社会に生きる日本人としての自覚
- 2) 自ら学び、自ら考える力の育成
- 3) ゆとりある教育活動を展開する中で、基礎・基本の確実な定着と個性を生かす教育の充実
- 4) 各学校が創意工夫を生かし特色ある教育、特色ある学校づくりの推進

第3の改革では「ゆとり」の中で「生きる力」を育めと述べているのです。その方法として、従来の「教師主導の教育」から「児童生徒の主体的な学習」への教育転換を教師に求めています。

《現実の学校教育の課題》

国がこの教育改革を断行する背景には、学校教育の憂慮すべき課題が山積しているのです。その一つが平成12年度全国小・中・高児童生徒の次のような状態です。

いじめ約30,900件 不登校約134,000人（中学校では38人に1人）暴力行為約40,400件  
高校中退約109,100人（全国で三条高校規模の学校が1年間で90校無くなる人数）  
自殺者（全体）30,226人（全国で1日平均83人）

この他に、青少年の非行や性の逸脱行為等枚挙にいとまがありません。私は同僚とともに、学級崩壊や学校崩壊等の苦しい経験に出会って来ました。そして“もはや学校や教師だけでは、日本の子供達を救うことができない段階に来た”と痛感しました。子供や学校が崩れることは、本当に恐ろしいことなのです。戦後の国を挙げて取り組んだ経済成長最優先政策を非難するつもりはありませんが、日本の子供達がこの陰で犠牲となったことは確かだと考えますが如何でしょうか。

《親から離された子供達》

医学の進歩により未熟児は、ガラスの無菌室で生命を維持し元気に成長することができるように